

第3章 コンクリートダム堤体工

1) 基礎価格の算定

型枠の基礎価格は次表により算定する。

なお、せき板組立解体の費用は、打設現場で組立解体する型枠（監査廊及び堤内仮排水路部）には計上しない。

表-1 型枠基礎価格 1基（〇〇m²）当り

名 称	規格	単 位	数 量	摘 要
支保工製作費		基	1	表-2
型 枠 材 料 費		基	1	
せき板組立解体		m ²	〇〇	表-5
計		円／基		

2) 支保工製作費

製作費の算定は、次表を標準とする。

表-2 支保工製作費 1基（〇〇m²）当り

名 称	規格	単 位	数 量	摘 要
支保工材料費		基	1.0	
副 資 材 費		t		材料重量
工 場 塗 装 費		m ²		表-4
直 接 労 務 費		人		材料重量×9人／t
間 接 労 務 費		式	1	直接労務費×40.8%（間接労務費率）
工 場 管 理 費		式	1	（直接労務費＋工場塗装費＋間接労務費）×33.5%（工場管理費率）
計				

（注）塗装面積は、必要面積の100%を計上する。

なお、工場塗装を必要としない部分とは、重ね合わせ部分等である。

(イ) 副資材費

副資材費は、溶接材料込みで16,400円／tとする。

(ロ) 直接労務費

直接労務費の算定は、次式による。

$$\text{直接労務費} = \text{製作工数} \times \text{直接労務単価}$$

$$\text{製作工数} = \text{材料重量} \times \text{標準工数}$$

なお、直接労務単価は27,800円／人、標準工数は9人／tとする。

(ハ) 間接労務費

間接労務費の算定は、次式による。

$$\text{間接労務費} = \text{直接労務費} \times \text{間接労務費率} (40.8\%)$$

(ニ) 工場管理費

工場管理費の算定は、次式による。

$$\text{工場管理費} = (\text{直接労務費} + \text{間接労務費} + \text{工場塗装費}) \times \text{工場管理費率} (33.5\%)$$

3) 支保工材料費

支保工材料費は、型枠材料のうちせき板及びボルトナット等を除く加工を要する支保工部分の材料費を計上する。

4) 鋼材単価

鋼材単価は、主要都市価格を原則とし、規格エキストラを必要に応じて加算する。

なお、鋼材の割増率は下表によるが、割増された鋼材の80%がスクラップとして回収可能とし、その単価はヘビーH1扱いとする。

鋼材単価の算定は、次表を標準とする。

表-3 鋼材単価計算表

名 称	規格	単位	単価 ①	割増率 ②	スクラップ単価 ③	計上単価 ④
鋼板類		t		17%		① × (1 + ②) - ③ × ② × 80%
型鋼類		t		12%		

第6章 フィルダム洪水吐工

② 編成人員

②-1 コンクリート打設締固め

1 トラッククレーン、ラフテレーンクレーン、クローラクレーン

トラッククレーン、ラフテレーンクレーン、クローラクレーンによるコンクリート打設・締固めの編成人員は、次表を標準とする。

1-1 コンクリート打設（クレーン）

編 成 人 員 (人)

項目 \ 職種	特殊作業員	普通作業員	計
人 員	1.0	1.0	2.0

(注) 1 クレーンの機種は、現場条件等を考慮して選定する。
2 クレーン車運転労務費は、別途計上する。

1-2 コンクリート締固め（手動バイブレータ）

編 成 人 員 (人)

項目 \ 職種	世話役	特殊作業員	普通作業員	計
人 員	1.0	4.0	3.0	8.0

(注) 1 手動バイブレータ台数は、2～3台を標準とする。
2 コンクリート締固め機械を使用する場合は、別途積上げ計上する。

2 コンクリートポンプ車

コンクリートポンプ車によるコンクリート打設締固めの編成人員は、次表を標準とする。

編 成 人 員 (人)

項目 \ 職種	世話役	特殊作業員	普通作業員	計
人 員	1.5	4.0	4.0	9.5

(注) 1 コンクリートポンプ車運転労務費は、別途計上する。
2 手動バイブレータ台数は、2～3台を標準とする。
3 配管による打設を行う場合には、圧送管組立及び撤去労務について普通作業員をそれぞれ、組立0.26人/10m、撤去0.20人/10m別途計上する。
なお、圧送管の固定足場（受枠）を必要とする場合は、別途計上する。

第 8 章 共通仮設費

(2) 副資材費

副資材費は、溶接材料込みで16,400円／tである。

(3) 直接労務費

直接労務費の算定は、次式による。

$$\text{直接労務費} = \text{製作工数} \times \text{直接労務単価}$$

$$\text{製作工数} = \text{材料重量 (t)} \times \text{標準工数}$$

なお、直接労務単価は27,800円／人、標準工数は9人／tを標準とする。

(4) 工場塗装費

塗装は工場塗装とする。

(5) 間接労務費

間接労務費の算定は、次式による。

$$\text{間接労務費} = \text{直接労務費} \times \text{間接労務費率 (40.8\%)}$$

(6) 工場管理費

工場管理費の算定は、次式による。

$$\text{工場管理費} = (\text{直接労務費} + \text{間接労務費} + \text{工場塗装費}) \times \text{工場管理費率 (33.5\%)}$$

3-2 設置撤去に要する費用

キャットウォークの設置撤去歩掛は、次表を標準とする。

設置撤去歩掛 (1t 当り)

工 種	設置区分	員 数			トラッククレーン もしくは ラフテレーンクレーン
		世 話 役	と び 工	溶 接 工	
設 置	ダム下流面	1.0 人	4.0 人	2.0 人	9 h
	ダム上流面	2.0 人	7.0 人	3.5 人	18 h
撤 去	ダム下流面	0.6 人	2.6 人	1.3 人	6 h
	ダム上流面	1.3 人	4.5 人	2.2 人	11 h

(注) 1 トラッククレーンもしくはラフテレーンクレーンは、既設クレーン(本体打設ケーブルクレーン等)を使用する場合もある。

なお、機種は現場条件等を考慮して選定する。

2 アーチダムはダム上流面を採用する。